

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年 4月 29日

【評価実施概要】

事業所番号	2272100336
法人名	株式会社 健康倶楽部
事業所名	グループホーム あかね
所在地 (電話番号)	富士宮市小泉字古宮2302-7 (0544-28-5300)

評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡市清水区迎山町4番1号
訪問調査日	平成21年 2月21日

【情報提供票より】(平成21年 1月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年11月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 14 人/ 非常勤3 人/ 常勤換算15.5 人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨造り 2階建ての1階～2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	¥60,000	その他の経費(月額)	無
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	昼食	
	夕食	おやつ	
または1日当たり ¥800			

(4) 利用者の概要(平成21年1月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2		2 名	
要介護3	8 名	要介護4		3 名	
要介護5	2 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 87 歳	最低	77 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	湖山病院・佐野医院・小泉歯科医院・はまなか歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

富士山を仰ぎ見る富士宮市のなだらかな丘陵地にあるホーム。西富士道路や国道139号線といった交通量の多い幹線道路が近くを通っているもののホーム近隣は閑静な住宅街となっている。隣には神社や公園、系列グループが経営するデイサービスがあり、それらの社会資源を活用した利用者の地域生活の支援が行われている。また環境面だけではなく地元区長や大家さんを窓口とし、開設から5年を経過する中で積み重ねてきた地域との関係も厚く、地域密着型としての今後の展開が期待される。管理者とユニットリーダーの連携も取れており利用者主体のケアの方向性が明確になっている。また、独自の研修システムとの相乗効果の波及によって更なる職員全体のケアの質の向上に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	水分摂取量については毎日記録として把握されており、また摂取量の少ない利用者については促しが行われたり、本人の好むものを提供するなどの工夫がみられ改善されている。重度化や終末期に向けた対応については訪問看護の事業所に打診中という具体的な取り組みも見られるが、基本方針やマニュアル、同意書の整備や意向の確認には至っていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者とユニットリーダーが中心となり職員に投げかけ相談をしながら作成をしている。ユニット間の違いや特徴が明確に出てきてはいないが事業所全体としての取り組みは理解できるものであった。自己評価項目で問われている事項については全職員で共有されることを望む。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されており、日頃のホームでのサービスの提供状況や外部評価の報告が行われている。また会議での意見交換により地域行事への参加やボランティアの掘り起こしにつながった事例もあり運営に取り入れられている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月生活の状況を写真入りの便りで報告しており家族にとって一つの安心材料となっている。面会時には随時近況を伝えるようにしている。その際には職員個々による差が生じないように窓口となる職員を管理者がユニットリーダーと決めている。良い面でもあるが、家族が他の職員と関係が作りにくいという一面もある。法人で行っている「満足度調査」結果や運営推進会議も活用しているものの家族からの意見は少なく、より家族の意見を引き出す方策の検討を望む。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地元の区長に地域密着型サービスとしての理解が得られており、祭り等の行事や会合等には地域の一人として案内があり、入居者の特性や職員の勤務状況に合わせてできる限り参加している。隣にある神社や公園といった場所での交流も日常的にあり、また地域向けの便りも発行されホームの理解の普及に一役買っている。地元中学生の体験学習も受け入れている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中で安心安全な生活ができる」という理念を掲げ、地域の中で暮らすということについて職員間で検討、意識付けがされている。	○	ホーム独自の理念を掲げ、すでにそれに向かって数々の積極的活動が実践されているが、より現状に則したものへと変化していくことも望まれる。職員全体で検討され、実践しているこれまでの理念をより具体化した新たな理念が生まれることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎年「目標管理シート」を活用し、職員各自が理念に対する目標を立て評価を行っている。また法人の行動指針、理念を携帯できるようカードにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の区長にホームの理解が得られており、祭り等の行事や会合等には地域の一員として案内があり、利用者の特性や職員の勤務状況に合わせてできる限り参加している。隣にある神社や公園といった場所での交流も日常的にあり、また地域向けの便りも発行されホームの理解に一役買っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の作成に当たっては管理者と各ユニットリーダーが中心となり職員に投げかけ相談をしながら作成している。評価結果については会議の場を通じ全職員に報告され改善に向け検討が行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されており、日頃のサービスの提供状況や外部評価の報告が行われている。また会議での意見交換により地域行事への参加やボランティアの掘り起こしにつながった事例もあり運営に取り入れられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議が現状の報告や市からの情報を得る機会となっているため、その他に意見を交わす場は設けていない。市主催の研修会には積極的に参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月定期的に金銭管理の報告と共に、利用者個々の近況報告を写真入りの便りによって行われており好評を得ている。家族の来訪時にも口頭による報告も常に行われている。また体調や状況の変化があればすぐに連絡を取り、随時家族と対応を検討している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人本部で行っている「満足度調査」を活用し、意見や苦情を受け入れ運営に反映させていく体制が会社法人組織として作られている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を維持するため職員はできる限り固定しているが、やむを得ない交代の場合は各ユニットリーダーを中心に周囲の職員がサポートしながら関係作りを行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	基本の確認からタイムリーなことなどをテーマとし、一定レベル以上で統一したケアができるよう毎月の勉強会を開催している。また法人で年1回「能力行動評価」と呼ばれる介護職としてのチェックテストを行うことによって日々のケアの再確認や新たに取組むべき課題を見つける機会となっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他ホームとの毎月の会議があり、サービス向上に向け地域性に配慮しながら統一した取り組みを検討している。また市内11のグループホームで開催する定例会へ参加し情報交換の他、利用者参加の運動会の企画や職員の交流が行われており、相互のレベルアップに役立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	お試し利用のような宿泊の体験の機会は設けていないが、必ず利用者本人、家族にホームの雰囲気を実際に感じてもらい利用を決定している。また家族との関係にも考慮しながら協力を得て対応を工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が役割を持ち主体となって活躍できる場面を設け、職員もまた感謝の言葉で受け入れ、自信を取り戻すように支援している。また利用者から教えてもらった生活の知恵などは「財産ノート」に書きとめ生活の中で活用している。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	開設から5年を経過し、介護度が重症化した利用者も多いが利用者の生活歴と日常生活を行動(障害)記録チェック表などを活用して観察し利用者の希望や思いの把握に努めようとしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者と家族を交えた話し合いを行っている。日々の利用者の行動を観察しながら、利用者担当職員とユニットリーダー、管理者とでケアチェック表を作成し介護計画に生かしている。介護計画は、職員皆が確認して日々の介護に活用している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヵ月ごとに行い、利用者に変化の見られたときは、期間内であっても介護計画の見直しを行っている。見直された介護計画は、面会時に家族への説明がなされ同意も得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	施設はデイサービスを併設しており、その利点を生かしデイサービスで催されている色々な行事に参加している。今のところ希望は無いものの、家族が施設で食事や宿泊することも可能である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と家族の同意の下、かかりつけ医を決定し家族と協力し通院介助が行われている。ホーム協力医の月1回の訪問診療も行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者をはじめ職員は、度々利用者が重症化した場合や終末期についての話し合いをもってはいるが、基本指針やマニュアルなど文章化されたものは共有していない。	○	ホームだけではなく社会全体の問題でもあるが、利用者の終末期のあり方は重要な事項である。利用者、家族、職員、ホームの皆が納得できる基本指針やマニュアルの整備が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の呼称には必ず「さん」付けで呼ぶなど、声掛けや言葉使いには、利用者の尊厳を損ねないように十分に心掛けている。介護記録等利用者の個人情報、鍵の掛かる保管庫に厳重に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、利用者一人ひとりのペースに合わせて日々の生活が営まれている。家族の了解の下、晩酌を楽しむ利用者も見られるとの事であった。また、食事の片付けを終わらせた後タバコの一服を楽しむ利用者の姿は、以前の生活を垣間見るようで、とても自然なものであった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は野菜を中心とした健康的な物であった。台所には利用者と職員が共に立ち、汁物を注ぐ利用者と配膳する職員とが和気あいあいと準備を進め、皆でテーブルを囲む姿は家庭的な雰囲気が自然とあふれていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に1回の入浴を原則に、利用者の希望に合わせた入浴支援が行われている。以前行われていた夜間入浴の支援が行われなくなっていた。	○	利用者の状態や、夜間の職員数の問題もあるが、「利用者さんに夜間も入浴させてあげたいです」と言っていた職員の思いを大事に、実現できる日を期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	施設の壁には利用者作成の大きな貼り絵の作品や、書道などが掲げられていて、中には福祉展に作品を出品する利用者もいた。食事では、調理の手伝い配膳片付けを当り前の様に行っている利用者の姿は、張り合いを持った生活を営んでいる様に見てとれた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	以前よりは外出の機会は減ったものの、近隣の神社や公園を散歩し、またコンビニエンスストアなどに買い物に出掛けている。利用者の誕生日には、利用者の行きつけの店に出掛けたりもしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上、夜間(20:30~6:30)の施錠は行われているが、日中の施錠は行われていない。職員は見守ることの重要性をよく理解しており、声掛けなど様々な工夫をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の指導の下、防災訓練を行っている。訓練時は運営推進会議を利用し、地域に協力を働きかけている。また災害発生時の家族の協力についてアンケート調査の実施に向けて検討を行っている。備蓄品に関しても出来る限りの準備をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の水分摂取は記録に残され、食事の時などには十分な水分が摂れるよう声掛けも行われている。お茶を望まない利用者には、健康飲料やゼリーでの水分の摂取を促すなどの工夫も見られる。体重測定を月1回行い、利用者一人ひとりの状態把握に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室の中心にある広々とした居間には、掘りコタツが備えられている。居間には、さりげなく季節の花が飾られていた。温度や湿度が心地良いものとなる様記録に残し、乾燥時は濡れタオルを干して湿度を補う等の工夫もしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ある利用者の壁には格好の良い帽子が数々掛かっていて、お洒落な個性が見られた。仏壇を持ち込んでいる利用者もいた。居室の出入り口にはタイル調の床が張られ、玄関を意識させる一戸の家のような雰囲気であった。		